

私たちの海にいま、問題が起きていています！

私たちの生活に不可欠なプラスチック。日本は世界でも廃棄量が多い国です。

プラスチックごみは世界で毎年数百万トンが海に流れこんでおり、このままでは2050年までに魚の量を上回ってしまうといわれています。

これは遠い海の話ではなく、身近な海でも起きていることなのです。

街のごみが川のごみへ、川のごみが海のごみへ

海に流れ込むプラスチックごみの8割は、私たちの暮らす陸域から発生しています。ポイ捨てされたごみや、正しい捨て方をされずに取り残されたごみは、風や雨に運ばれ排水溝や川をとおり、海に流れ込みます。

福岡市内の川や海で清掃して集めたごみの調査でも、プラスチックがとても多くを占めていることが分かっています。その中には、レジ袋や容器包装プラスチックなど、私たちが日々の生活で使うものが多くみられました。

流れ込んだプラスチックごみの5%は海岸、1%は海面へ、そして94%がやがては海底に沈んでいくといわれています。

出典元：「海洋ごみ問題について」（環境省）8P、Eunomia(2016)Plastics in the Marine Environment(Third International Conference on Marine Debris(1994),GESAMP(1991),Results of the International Coastal Cleanup(ICC)(2012)等から概算)



出典元：令和元年度 福岡市保健環境研究所調べ

海に流れ込んだごみによる影響

生き物への影響

ごみが身体に巻き付いてくい込み、傷つけてしまうことがあります。
また、エサと間違えて食べてしまうこともあります。
栄養のないプラスチックごみでお腹がいっぱいになってしまふと、
本来のエサが食べられなくなり、生き物は弱ってしまいます。

漁業への影響

プラスチックごみが網に絡まるなど、
漁業の妨げになってしまいます。
海底にごみがあると、生き物がすみにくくなるなど、
漁場環境の悪化につながる要因になるといわれています。

このままプラスチックごみを放っておくと…

プラスチックは波や太陽の力でもろくなり、バラバラに碎かれてしまいます。
海に散らばる5mm以下の「マイクロプラスチック」はとても拾い集めることはできません。



私たちができること

私たちの大切な、きれいな海を未来につないでいくため、自分にできることから始めてみましょう。

ごみになるものをもらわない

自宅にテイクアウトする時にはスプーンやフォークを断るなど、「とりあえずもらう」をやめましょう。

繰り返し使う

お気に入りのマイバッグを使って、使い捨てのプラスチックを減らしましょう。

ごみをポイ捨てしない

家族や友達にもポイ捨てさせない。
ごみが散乱しないように、出す時間などのルールを守りましょう。

資源はリサイクル

リサイクルできるものはごみではなく、資源として分別しましょう。

清掃活動でごみを捨てる

たとえばラブアース・クリーンアップなど。自分の手できれいにすると、気分がリフレッシュするし、街や自然が好きになります。